



なばり

2015年(平成27年) 8月9日発行

主な内容

- 1~4 特集 名張にも戦争があった
- 5……みえ森と緑の県民税の活用、リカーチャレンジ特区
- 7……施設ご利用ガイド
- 8……9月の相談、お盆の診療機関

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp



70年前、米軍の空襲により50人の犠牲を出した赤目口駅のプラットフォーム

昭和20年6月、私たち家族は、家族6人で滝川村一ノ井(現赤目町一ノ井)へ疎開して来ました。名張での生活に慣れてきた7月24日、両親が弟を連れて空襲で焼けてしまった家の片付けと新居を探しに大阪へ行くと言って出掛けました。朝7時30分ごろのことです。これが最後の別れとなりました。

空襲警報のサイレンが鳴り学校は休み。姉と私は家にいました。しばらくすると、飛行機が低空で飛ぶ音と「パンパン」と機銃掃射の音が出て、怖くて布団に潜っていました。間もなくして近所のおばさんが、「お父さんが撃たれたから、早く役場に行きなさい」と駆け込んできました。役場を探して、多くの負傷者が運ばれているという小学校の講堂に行きました。姉と二人で、多くの人が血だらけになり横たわっている中から、父らを見つけてきました。

父は右足を粉砕され死の直前の状態。その横で、母は胸部を銃弾で撃たれて死亡。幼い弟は大混乱の中で踏まれて死亡したらしく、母に抱かれるように目を閉じていました。

父は、最後の気力で姉に、これからのことを指示してから、息を引き取りました。

赤目口駅の空襲で家族を失った(当時9歳) 市内在住79歳

多くの尊い命が奪われた第二次世界大戦が終結して、今年70年の節目の年です。年月とともに戦争の出来事や当時の思いを語る体験者が少なくなっていく中、忘れてはならない戦争を、どのように次の世代に語り継いでいくかが課題となっています。

70年前、名張で記録に残る大きな出来事は、「B29爆撃機墜落」、「威持小学校機銃掃射攻撃」、「新田空襲」、「赤目口駅空襲」などがあります。これらの出来事は、都市部の被害に比べれば小さいかもしれませんが、当時の人は、「この名張にまで」と、戦争の恐怖を感じたに違いありません。

今号では、これらの名張であった戦争の出来事について当時を知る皆さんに、今でも記憶に残る痛ましい体験を伺いました。戦争の歴史を風化させないために、平和のために私たちができることを考えたいと思います。

■戦後70年の節目——これからも続く戦後

特集 名張にも戦争があった

☎ 広報対話室 ☎ 63-7402



伊賀電気鉄道沿いで行軍演習をする兵士(威持あたり) 地元の子どもたちは、日の丸を振って見送った

2ページ以降に続く